

〔三代實錄光五十〕仁和三年五月廿八日辛丑、勅以山城國乙訓郡大原野爲太上天皇陽遊獵之地、

〔帝王編年記醍醐十五〕昌泰元年十月廿一日、太上天皇多有御鷹狩逍遙、遂幸吉野宮瀨、

〔日本紀略朱雀二〕天慶九年十二月三日己未、太上天皇雀從朱雀院幸宇治院遊獵、

〔明月記〕建仁三年十月八日、明日御狩鳥羽後云々、入夜歸冷泉、十日、乘車參河陽、渡桂河、互三掛之後、

騎馬參御所、留守人々云、昨日無御狩、今御片野了、即退下、申時許參上、日入還御退下、十一日、向黃

門宿所、明日又御狩云々、十四日、早旦例御狩、申始許參上、以前還御、俄而出御、遊女列座、事了退下

之後、殿下御參、前駟六人、御共能季、資家朝臣布衣内々讚州示不可憚由、仍乍水于參迎、御參之後、即御

對面、良久御退出、於故内府宿所儲御饌、忠綱俊光依仰行事、馳走事了、自本路御退出、暫御逗留、由被

奉留、即被引御馬後光引之、以予每度賜御馬、殊畏申由、被仰俊光、今夜可乘舟、可伴由被仰、即參御船、於舟

中、又各有食事等、於赤江、力者十二人精撰、自院被奉、本雖被儲、被用御力者、入御九條殿、明月蒼々、暫

逗留女院御所邊、曉鐘報、取寄車歸冷泉、

〔扶桑略記白河三十〕延久五年正月十一日乙卯、太上天皇後三條御行前丹波守藤原公基之六條宅、依閑院造

作事、被遊方角忌給也、大納言以下著衣冠、勤仕前駟三代又見三十略

〔榮花物語松三十八〕公基の丹後守の六條のいへ、院後三條にまゐらせたる、御方違にひるわたらせ

給、上達部殿上人、わざとの御物さうでのやうにおほくつかまつれり、めでたし、もの見車なぞい

とおほかり、

〔中右記〕嘉承二年十二月十六日、入夜參院白河、今夜節分也、仍爲御方違、御幸白河俊寛法橋房、

〔中右記〕天仁元年十一月十七日、今夕俄有御幸白河、六條殿攝政殿、藤大納言以下、公卿五六輩直衣殿

上人廿人許直衣前駟於六條殿、北面方有御神樂興密儀也、御神樂了、有盃酌御遊按察中納言、拍子呂安名尊、

律、今様、雜藝、盤涉調、今様各出之朗詠、夜半事了各分散、今夜御幸、御方違云々、

方違御幸